

サステイナブル




JOMON
土器の展示販売


JOMON
土器ワークショップ


JOMON
カフェ


JOMON
トークショー

SUSTAINABLE JOMON 2019 JOMON展

風の沢ミュージアム

(宮城県栗原市一迫片子沢外の沢11)

入場無料

2019 **4/27** [SAT] - **5/6** [MON]

10:00~17:00 ※最終日は15時まで

※トークショー、ワークショップ、カフェは別途料金が必要

主催：縄紋文化研究会

協力：東北芸術文化学会/風の沢ミュージアム

NPO法人帰園田居創生機構

問い合わせ：風の沢ミュージアム0228-52-2811



JOMON

サステイナブル 縄文展 2019

SUSTAINABLE JOMON

1万年以上続いたとされる縄文時代。これほど長期で1つの時代が続いた歴史は世界に例がなく近年、世界からの注目度が増しています。現代社会が求めている自然とのバランスや、社会のヒントは縄文時代にあるのかも知れません。本展においては、土器・土偶の展示を通して、縄文という時代に想いを巡らせ、地続きとしての“縄文時代”を感じ得る一つの機会にできればと考えています。



縄文文化研究会とは

主に宮城に住む“縄文大好き”な人が集い、土器製作や野焼といった実験考古学的活動を中心に縄文文化の謎を探求する研究会。土器の作成を行うと共に、縄文時代の素晴らしさを解説する活動を通じて、縄文大好き人材も発掘中。主な出沒イベントは「縄文の炎・藤沢野焼祭」「くりはら万葉祭」「アースデイ宮城おおさき」など。“縄文人はどのような事を考え生活していたか？”縄文文化を知った上で、自分の縄文はどんな物か向き合い、土器制作に取り組んでいます。

縄文文化研究会会員による作品の展示と販売を行います。

望月昭秀(縄文ZINE編集長)をお招きし、縄文時代の生活やその魅力についてお話しします。

JOMON 土器の展示販売

4月27日(土)～5月6日(月祝)
時間:10時～17時※最終日は15時まで
会場:風の沢ミュージアム内 ギャラリー
入場無料
先着100名様へ土製品プレゼント

《参加メンバー》大木義則、廣瀬欣孝、杉浦風ノ介、尾勝健太、Joshua Bengtson、岡野龍泉、門間裕治、みはらかつお、佐京窯、吉田孝幸

JOMON トークショー

4月29日(月祝)
時間:13時～14時30分
会場:風の沢ミュージアム内 万葉祭広場
(雨天時はカフェで開催)
料金:1,500円
出演:望月昭秀(縄文ZINE編集長)、他
予約:電話0228-52-2811

メール:jomonjine@furo-kikaku.com
※氏名、参加人数、携帯番号をお知らせください。

望月昭秀 編集長も参加。縄文文化研究会講師の指導により縄文土器作りを行います。

縄文土器をイメージしたカップでコーヒーを提供。縄文クッキーの販売を行います。

JOMON 土器 ワークショップ

4月29日(月祝)
時間:15時～17時
会場:風の沢ミュージアム内 万葉祭広場
料金:1,000円/予約不要当日受付

JOMON カフェ

4月27日(土)～5月6日(月祝)
時間:11時～17時
会場:風の沢ミュージアム内 カフェ
コーヒー400円～
土器クッキー 他



【縄文文化研究会 会長 大木義則】

1945年静岡県生まれ。國學院大学卒業。教育美術教材メーカーに在職しながら縄文土器の研究活動を行う。1991年頃より加曽利貝塚博物館にて縄文土器の制作、野焼き等の研究活動を行う。1995年東北芸術文化学会入会(現在監査役)。2010年陶炎会入会。年1回の作品展を東京の松坂屋、丸善で開催。2006年より栗原市金成に拠点を移し、縄文土器制作、土器焼き等の研究活動を行いながら、東京、埼玉、青森、岩手、秋田、宮城にて土器、土偶制作の指導を行っている。



【縄文ZINE 編集長 望月昭秀】

1972年弥生遺跡である登呂遺跡で有名な静岡県生まれ。株式会社ニルソンデザイン事務所代表/縄文ZINE編集長。ニルソンデザイン事務所は商品パッケージから書籍、雑誌まで、グラフィック全般を幅広く手がけているデザイン事務所。2015年からフリーペーパー「縄文ZINE」を発行。著書に『縄文人に相談だ』、『縄文力で生き残れ』など。



【縄文ZINE】

2015年の夏から発行されているフリーペーパー(現在9号まで発行)。
発行を重ねるごとに全国で新しい縄文ファンを発掘し、現在は毎月3万部を発行、日本全国300箇所以上で配布されている。